わたしたちが歩んできた思い出の足跡

《第39期生》チーム波佐見　祝　卒業

波佐見高校
山脈（やまみゃく）

発行所
長崎県東彼杵郡
波佐見町長野郷312−5
県立波佐見高等学校
ＰＴＡ広報委員会
TEL 0956−85−3215
http://www.news.ed.jp/hasami-h/

印刷
(株)康真堂印刷

校訓
自律　積極　究理

39期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます

ＰＴＡ会長　山口　辰彦

高校生活3年間の歩みはどうでしたか。不安と希望を胸に始まった高校生活は、あっという間でしたね！仲間達との出会い、沢山の経験・部活動と学業の両立の難しさ等、思い起こせば、毎日が慌ただしい日々だったのではなかったでしょうか。ただ懸命に事に向かって頑張ってきた事は、決して無駄な時間ではありませんでしたよ。失敗しても乗り越えようと努力してきた積み重ねが、皆さんの大きな力となり、社会で出会う心の苦難にぶち向かう、あなたの勇気と自信につながります。

これから新たな出発です。自分の弱さに逃げる事なく、凡事徹底つまり平凡な事こそ、徹底してやり遂げる姿勢を貫いてください。これまで皆さんが生まれてからの人生を、ただただすらに育て、応援し、有形無形の愛情を精一杯注いでくださった両親の感謝を忘れず、新しい人生をつくり上げてください。皆さんの人生の成功を祈っております。

27年度も終わりを迎え、振り返れば沢山の出会い、感動を頂きました。総会の折、学校教育と家庭教育の両立の大切さについて、話をさせて頂きました。学校では、勉学や部活、多くの行事や研修を経て、人間力を養います。その陰には、先生方の大きな力添えがあっての事です。では、「家庭教育とは？」と問い向うと、どの親も子どもに対して何ができているのかが分からない状況であることは事実大のです。私もその中の一人でありました。

子どもが社会に出るまでに身につけさせられるもの、人としての力、人間力だかもしれません。学校教育と家庭教育が共存してこその教育の時代になっています。学校と家庭が子どものために協力し合う協育を両立し、進めていける3年間ではないでしょうか。

ＰＴＡ活動の折、子ども達の学校生活を伺えますが、上級生になるにつれ、真剣に取り組む姿勢がはっきり見えてきます。挨拶運動、校内除草また、学校行事など、こども達が率先して活動してくれる姿に感動させられます。親である私達も時間をつくり、学校と一緒に子ども達の姿を見てあげられる最後の時であり、また、我が子の成長、自律を見てあげることが親の責任でもあります。私達ＰＴＡは、この年、一期一会を大切に、子ども達との時間を過ごさせて頂きました。そこに、我が子に居なくとも、同じ波佐見高校生として、我が子の命と思い、沢山の言葉や精一杯の心の応援を投げかけてきました。成果の大小は違えども、素直に受け止め、さわやかな言葉や姿勢で返してくれる子ども達の姿に感謝の思いです。

終わりに、継ぐ手は離れていきますが、心の糸は生きている限りしっかりと繋いでおきたいものです。この一年、お世話になりました。波佐見高校の生徒諸君、あなたの成長を祈っております。

保護者の皆さま、先生方、そしてこの1年支えてくださった役員の皆さん、沢山の力をありがとうございました。これからも、我が波佐見高校は、前進し続けます。感謝!!

波佐見高校で学ぶ、子として親として

母の会会長　松永　佐百合

ＰＴＡ・母の会活動の参加について、こんな声を耳にします。「うちの子は成績が良いから問題ない。」「うちの子は成績も悪いし先生に注意されてばかりいるから、参加するのは気が引ける。」「高校になっても、親がそんな関わらんばとよ？」「私たちの時代の親と比べてしまうから、ＰＴＡ活動に参加しない。」といった色々な考えや意見があります。しかし、私たちの学生時代と現在の環境では大きく変化しました。インターネットの普及で、情報や物がすぐ誰にでも手に入るようになりました。核家族化で祖父母世代と子ども世代の関係も希薄になり、子育てが難しくなっているように思います。

思い返せば3年前、我が子が波佐見高校の受検前にこんな事をつぶやきました。

「夢がある奴が羨ましいよ。」

彼が波佐見高校に入学した後、この言葉が気になっていた私は、子どもが学校を辞めるとか言わないだろうかと不安でたまりませんでした。そして、あの子は波佐見高校で自分の夢を見つけました。それは、親として考えもしない夢でした。何度も話し合いました。しまいには大ゲンカもしました。主人からは「あまり言い過ぎたらしまいには殺されるぞ。」と言われる始末です。結局、条件付きで認めました。

そんな時、朝井リョウさんの「18きっぷ」という本に出合いました。涙がふれてきました。この本に載っている十八歳の彼らの目の輝きと、また、そのエッセイの内容に感動しました。

それを一部紹介します。「生きている限り、あなたの選択は続いていく。生きている限り、選択は続いていく。だけど大丈夫だ。二度目の選択をするあなたは、一度目の選択をしてきたあなたなのだ。同じように、三度目の選択をするあなたは、二度目の、二度目の選択をすることができたあなたなのだ。あなたは、生きるたび、選ぶたび、強くなっている。」

私は悔いました。子の成長を喜び、見守り、励まし、そして、躾や教育と信じてかけていた言葉だったはずなのに、いつの間にか、我が子を否定する事しか言わない人になってしまっていたことを悔きました。我が子の目の輝きを奪おうとしていた自分が情けなくなりました。

浦川末子先生の言葉に、「教えられていないことは、いくつになっても知らないしたことのないことは、いくつになっても出来ない。「教えられなかったは不幸は、子ども自身が背負って生きなければならない。」親にとっては大変に重い言葉です。教えていないのは親の責任なのです。しかし、今の親はどうなのでしょうか。見て見ぬ振り、知らない振り、聞こえない振り、そんな親はたくさんいます。言うのが面倒だから？すのが面倒だから？

波佐見高校での私の3年間は、どうだっただろうか。先生は子どもたちの指導を行い、親も先生から子どものことで耳の痛い話を聞かされたけれども、それは、子どもの愛情、信頼あっての教えでした。

3年間を振り返れば、また、ＰＴＡ・母の会活動を通して、多くの保護者や地域の方から、子どもたちの声掛けをいただきました。皆様の一声援は、どれほど心に残る温かい教えになったかは計り知れません。波佐見高校に関わってくださいました皆様に、感謝申し上げます。3年間ありがとうございました。「チーム波佐見」に感謝します。

あの時、先生が、母さんが、自分に言ってくれた言葉、毎日やってくれた事、見守っていてくれた事に、いつか、「感謝」してくれる日を待ちたいと思い、ペンを置きます。

２学期以降の行事

9月 就職受験者集会

9月 進学受験者集会

10月 芸術鑑賞会

10月 第3回 オープンスクール

11月 文化発表会（文化部紹介）

11月 文化発表会（合唱）

11月 鴻の巣塾（人生の達人セミナー）

12月 商業科販売実習

12月 主権者教育

12月 卒業制作展

編集後記

３年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今回は、卒業生の“一言”にスポットをあてました。それぞれの“思い”が伝わることを願っております。皆さん、ぜひ読んでください。

また、お忙しい中、無理な原稿依頼にも快く協力してくださった皆様方には、大変感謝しております。この場をお借りして、お礼申し上げます。

PTA・母の会研修旅行に参加して

母の会副会長　重松　美代子

11月22日（日）深秋の秋晴れの日に、小柳教頭先生、橋本事務長を含む合計15名の会員の参加で、車外からの山々の紅葉や佐賀平野に上がるバルーンを眺めながら、バスは一路福岡方面へと向かいました。その車中では、自己紹介で盛り上がり、早くも楽しい雰囲気でした。

まず、最初の研修地は、「福岡観光会館はかた」での明太子についての説明を聞きながら、お好みのワイン、日本酒、ブランデーなどのお酒や唐辛子を入れた世界に一つだけのオリジナル辛子明太子を手作りし、お土産に持ち帰ることができました。一週間後に、冷蔵庫にねかせておいて食べた明太子の味は、格別な美味しさでした。

午後から、「アサヒビール博多工場」を訪問しました。都会の街の中に、広大な敷地の工場に驚き、工場見学では、ビールの製造工程や歴史、自然環境への取り組みなどを知ることができ、大変勉強になりました。

見学後は、できたてのおいしいビールや清涼飲料水を試飲しました。最後は、銘菓“鶴乃子”で有名な「萬盛堂」を見学しました。ガラス越しに工場内の製造工程を見ながら、できたてのフワフワした“鶴乃子”を試食し、マシュマロの柔らかな食感と美味しさに感動しました。みんなで、お菓子のお土産をたくさん買って帰りました。

帰りのバスでは、ビンゴゲームをしました。校長賞、会長賞などの豪華景品もあり大盛り上がりでした。たくさんの景品のお土産に皆さん喜ばれ、“アッ”という間に帰路につきました。

今回の研修旅行は、私自身、日頃の仕事、家事、育児から離れ、参加の皆さんと親睦を深めることができ、大変充実した有意義な楽しい一日を過ごすことができ、とても幸せを感じました。

我が校のＰＴＡ・母の会研修旅行は、本当に楽しい旅行です。次回は、より多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

三地区PTA研修会

教務主任　安達　健

平成27年1月7日(土)、昼の1時から諫早文化会館で「諫早・大村・東彼地区　公立高等学校ＰＴＡ研修会」がありました。

今年は「子どもの個性との付き合い方　～保護者のネットワークづくり～」と題したテーマでした。

高校生ともなれば、社会的に自立しようと準備を始め、自分の個性を発揮しようとしますが、当然のことながらそこには衝突・葛藤・苦悩・劣等感など様々な苦しみが襲います。親としても何とか助けてやりたいのに、どうしようもなくて、ただ黙って見ている人も少なくありません。

そういう悩んでいる親御さんに、一人で悩まず、地域や保護者同士が助け合うことで解決する道があることを示したい、そのような趣旨のもと、講演と研究協議が行われました。

特に研究協議では、様々な校種の四人の保護者が、自分が助け、また人から助けられることで困難を乗り越えていった体験を発表し、参加者に大きな感銘を与えていました。

波佐見高校からも山口会長をはじめ、10名近くが参加し、熱心に聞き入っていました。この研修会は本校ＰＴＡ活動に大きな示唆を与えたのではないかと思います。